

市長の公約進捗状況

令和6年12月30日

各公約の進捗状況について、次の判断基準により区分しています。
1:未着手／2:検討中／3:着手済(進捗率50%以下)／4:推進中／5:完了

No.	項目	進捗状況 (R6.12時点)	現在の状況と今後の取組予定
公約1. 財政再建を締めくくり安心と希望のまちへ			
1	計画に基づく着実な財政再建、再建後の財政確立	4	計画どおりに再生振替特例債を償還、残すところ2年余りとなった。今後も再建後の財政運営を確実なものとするため、財政収支推計を適時実施し、規律正しい財政運営を目指す。
2	再建完了後のまちの姿を「夕張市総合計画」の策定により、市民の皆様へ「安心と希望」をお示しします	2	情報収集などの準備を進めながら具体的な策定スキームを検討した。令和7年度からは市民アンケートの実施など、本格的な策定業務に着手する。
3	コンパクトシティの推進において、「地域再編地区」の行政相談体制、市内の支え合いの仕組みづくりを検討します	4	市内5か所のふれあいサロンの運営により住民同士の支えあい場をつくっている。また、生活支援サポーター養成講座を実施して人材確保と育成にも取り組んでいる。今後も継続して、地域の支え合いの仕組みづくりに向けた取り組みを行う。
4	市庁舎移転改築にあわせ、庁舎周辺の整備(公園、居住、商業区域)などの整備を進めます	4	令和5年度から清水沢地区の用途地域の見直しを進め、令和7年3月に都市計画決定による用途地域の変更を予定している。また、清水沢地区の公園整備について、これまでの検討結果を踏まえ、令和7年度内に同地区の都市公園再編計画案の作成を進める予定である。商業分野では、今後の施策を検討するため、庁舎移転となった場合の影響調査を実施。
公約2. 地方にいても安心な子育て・教育環境を			
1	社会で活躍するために必要な基礎学力の定着・向上をはかる教育をすすめます	4	令和6年度から小中一貫教育を開始するなど「ゆうぱりっこ学び育成プラン」に基づき、確かな学力を身に付ける教育を推進した。今後は、子どもたちの教育に直接携わる教員の研修活動を積極的に行っていくとともに、必要に応じた見直しを図りながら基礎学力の定着・向上を推進する。
2	地域の「最高学府」である「夕張高校」を守るため、夕張の歴史風土と環境を活かしたカリキュラムを導入します	4	夕張高校卒業時に身につけてほしい学力の3要素を定め、夕張ならではの魅力的な授業づくり(総合的な探究の時間)を行っている。今後は、この授業づくりを拡大するため、高校教員との連携体制を深める。
3	独自のカリキュラムの実施を通じ、社会で活躍できる人材育成を図ることを通じて、選ばれる夕張高校へと魅力を高め、地元進学率の向上、全国から生徒を受け入れる環境整備をすすめます	4	令和6年度より公設寮の運営を開始し、地域みらい留学の取り組みにより、市外からも生徒を受け入れるとともに地元進学率も増加となった。今後も夕張高校魅力化事業を積極的に推進しながら、魅力的な学校づくりと市外生徒の受入れ体制の強化などに取り組む。
4	ゆうぱりサポートオンライン塾(小4～中3)を開設します	4	令和5年度から開設しており、令和6年度は小中併せて16名が参加した。令和7年度以降も継続して実施する。
5	(仮称)夕張っ子政策会議を実施します	3	小学校6年生と中学校全学年を対象にしたあつやトークを実施した。令和7年度も継続して実施する。
6	文化・芸術・スポーツ活動を継続・継承するための施策を検討します	3	全市音楽発表会、旧夕張美術館収蔵品セレクション展、総合型地域スポーツクラブなど、多岐にわたる事業を実施している。令和7年度も継続して実施する。
7	夕張市社会教育中期計画に基づく「豊かな心を育む、多様性を尊重した生涯学習」を推進します	4	第7次夕張市社会教育中期計画(計画期間令和4年度から令和8年度)に基づき、事業を実施しており、令和7年度も継続して実施する。
8	育児教室から産後訪問まで妊産婦等支援の充実を進めます	4	子育て支援関係機関との連携を図りながら、市の保健師、栄養士等専門職による伴走型相談支援、産後ケア事業などの取組を実施している。令和7年度も継続して実施する。
9	育児の負担に寄り添うサポートを実施します	4	保育料や副食費等の費用負担軽減事業を実施し、今後も継続予定。また、現在実施している保健師等の専門職による相談支援については、子育て世代に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充に向けて検討する。
10	夕張固有の車両であるSL館の車両移設を検討すると同時に、市内文化財の適切な保護と活用をすすめます	2	車両移設検討の前段として、SL館の適切な施設維持管理についての協議を行っている。

各公約の進捗状況について、次の判断基準により区分しています。
1:未着手／2:検討中／3:着手済(進捗率50%以下)／4:推進中／5:完了

No.	項目	進捗状況 (R6.12時点)	現在の状況と今後の取組予定
公約3. 安心・安全な市民生活を守り高めます			
1	市民ニーズに応える「新たな公共交通体系」を構築します	3	民間事業者による市外バス路線の廃止に伴い、夕張市が主体となって市外線デマンド交通を運行している。随時、乗り継ぎ先の交通ダイヤ等も考慮しながら、運行の調整を実施して、利便性向上を図っていく。
2	敬老乗車証の維持による高齢者の福祉増進をはかります	4	70歳以上の高齢者に1乗車100円で利用できる敬老乗車証を交付する事業を実施しており、今後も当事業を継続していきながら、引きこもり防止や介護予防のためにも外出を促進していく。
3	「夕張公式LINE」を導入し、情報発信の強化をはかります	3	高齢者が半数を占める当市におけるスピーディな情報伝達手段として、LINEに代わり地デジ広報を利用した情報発信を採用し、令和6年4月から発信を開始した。今後も地デジ広報、Yahoo防災アプリの普及に努めながら、市の情報発信全般についての効果検証を行う。また、高齢者向けスマホ教室については、今後も継続して普及に努める。
4	行政執行体制の確立に向け、職員の確保をすすめるとともに夕張市固有の市職員研修を進め、確かな人材育成を進めます	3	新たな試験項目の追加、年齢制限の緩和など職員採用活動の強化を図っているが、全国的な人手不足の状況に鑑み、更なる人材確保の検討が必要。職員育成については、契約事務の再点検、指導を実施するとともに、職員のモチベーションアップにつながる研修の検討を行う。
5	光ファイバー未敷設地域の通信環境改善策を検討します	4	令和6年10月に未敷設地域対象を対象とした高速回線が利用可能となる機材を導入するための補助事業を開始した。今後は当事業を継続しながら、通信環境改善策についても引き続き検討する。
6	将来のゴミの最終処分について準備をすすめます	3	富野じん芥理立処分地施設の延命化対策を実施した。また、焼却処分等に係る広域処理の処理先や施設整備についての具体的な検討を進める。
7	「市道」の適切な維持管理と、計画的補修を実施します	4	清水沢橋架替工事、清水沢市街本通線道路改良設計、鹿の谷常盤線道路補修工事、南清水沢清水ヶ丘住宅線及び各所補修工事を実施している。今後も清水沢橋架替工事及び清水沢市街本通線道路改良工事、その他橋梁長寿命化計画による維持修繕や道路補修等を随時行う。
8	「合同墓」の設置について検討します	2	合同墓への視察を実施し、寺院等に対してアンケートを実施した。今後はアンケート結果を踏まえて具体的な方針を決定する。
公約4. 夕張メロンと地域経済を守ります			
1	夕張メロンの将来にわたる安定生産を実現するため、多様な担い手の確保、後継者確保のため、生産者、農業関係者と三位一体の取り組みに着手します	3	夕張メロン栽培の担い手確保に向けて協議を行っており、今後も農協・生産者と連携し協議を継続して実施する。
2	企業とともに未利用工業団地の活用促進をはかります	3	未活用地を所有する企業に対して、活用・売却・賃貸等の方針調査を実施しており、今後もこの調査を継続しながら、活用希望事業者とのマッチングを実施する。
3	道の駅周辺整備に際し、民間企業の誘致をすすめます	3	道の駅内への市内事業者(飲食店)の outlet・出品に加え、「道の駅夕張メロードフェスタ」開催により誘客促進を図ってきた。今後も民間企業が参入しやすい環境を構築するための取り組みを継続して行う。
4	事業者、商店街活性化の取り組み支援をすすめます	3	夕張商工会議所を通じて、プレミアムチケット事業などの消費喚起・誘客促進を実施した。今後も市内経済活性化を念頭に置いて、商工会議所や市内事業者との連携による取組を実施する。
5	観光資源を最大限に生かすための方針を策定します	3	市内観光関係団体と個別にアリリングを実施した。今後も市内の観光団体や事業者と情報共有や協議検討を行い、市の方針を策定する。
公約5. 高齢化率日本一から健康寿命日本一へ！			
1	介護予防運動の充実を図り、介護予防運動に取り組む機運を高め「高齢化率日本一」から、「健康寿命日本一」をめざします	3	「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」、「健康ゆうばり21(第2次)」を策定した。また、一般介護予防にかかるとする事業を実施した。今後は中長期視点に立ち各種計画に基づき、健康寿命延伸に向けた事業を実施していく。
2	健康管理システムを活用し「健康づくり・疾病予防・保健事業・介護予防」を一体的に取り組み、対人支援の強化、受診率の向上をはかります	3	受診率向上のため、保健師等の訪問を強化して、予防意識の啓発を促した。今後も健康管理システムからの情報把握に努めながら、関係部署と協働して、「健康づくり・疾病予防・保健事業・介護予防」に一体的に取り組む。